令和６年度
見川地区市民懇談会記録書

令和６年10月19日（土曜日）　13：30～15：30
見川市民センター　ホール

水　戸　市

市長公室　みとの魅力発信課　市民相談室

目　次

進行次第　2

市出席者　3

懇談会概要　4

懇談会記録　5

　テーマ１　多世代が交流する総合的学習広場の構築　12

　テーマ２　見川幼稚園跡地を利用した子育て支援施設　18

市長総括　25

当日発表資料（地区会作成）　28

進行次第

1　開式の言葉

2　市民憲章唱和

3　住みよい見川をつくる会　会長あいさつ

4　市長あいさつ

5　市側出席者紹介及び市民懇談会記録書に関する説明

6　要望及び回答

　テーマ１　多世代が交流する総合的学習広場の構築

　テーマ２　見川幼稚園跡地を利用した子育て支援施設

7　市長総括

8　閉式の言葉

市出席者

執行部

市長	高橋　靖
市長公室長	佐藤　則行
市民協働部長	小嶋　いつみ
こども部長	野口　奈津子

事務局

みとの魅力発信課長	櫻井　学
市民相談室長	笹島　章広
相談係長	栗田　朋昌
相談係	石川　和美
見川市民センター所長	五上　正嗣

市出席者	11 名
地区出席者	23 名
来賓者	２名
合計	36 名

懇談会概要

１　多世代が交流する総合的学習広場の構築について

見川地区以外においても同様に，それぞれの特性に合った取組が行われる必要があると考えている。特に，地域コミュニティの活性化に向け，自らの地域で，地域の愛着を持って活躍できるリーダーを育成していただくことが大変重要と考えている。

地区会・町内会の加入率が低下しており，地域コミュニティへの支援が求められている中，地域における市民センターの職員が担う役割というのはますます大きくなっていると認識している。そのため，地域の最前線で住民と共にまちづくりを進める市民センターの職員は大変重要な役割になっていると考えており，幅広い分野で地域を支援できるよう，引き続き，職員のスキルアップに努めていく。

また，市民センターにおいては，必要に応じて，関係部署をはじめとした関係機関との連絡調整を行い，地域につなげるなど，コミュニティ活動の促進に向けて，相談体制の充実・強化に努めていく。

２　見川幼稚園跡地を利用した子育て支援施設について

本市においては，限られた財源の中で，ハード事業からソフト事業への転換を基本とし，市民ニーズを的確に捉えながら優先順位を定め，市立小学校給食費の無償化，第二子保育料の無償化をはじめとする子育て世帯の経済的負担の軽減に最優先で取り組んでいる。

このため，新たなハード事業を直ちに位置づけることは難しい状況であり，新たな子育て支援施設の整備については，子育て支援施策の進捗状況を踏まえながら，水戸市第７次総合計画後期計画を策定する中で検討してまいりたいと考えている。

また，見川小学校のグラウンドについては，シダレザクラから小学校校舎までの北側の範囲をグラウンドとして整備する予定であり，令和６年度に設計をし，令和７年度と令和８年度で工事を実施していく。

シダレザクラの南側については，現状の更地を整地し，見川小学校が学校活動で必要な際に，北側のグラウンドと合わせて一体的に使用できるようにすることで，児童にとって活動しやすい場となるようにしていきたいと考えている。

幼稚園跡地の将来的な利活用につきましては，学校活動での利用状況等を踏まえるとともに，こどもたちの遊び場や地域住民の健康づくり，これらによる多世代交流といった視点から，その在り方について，今後，検討していく。

今後については，市民の皆様から一番要望の強い経済的負担の軽減を全部完了させてから，またハード事業を検討していきたい。

懇談会記録

○司会

皆さん，こんにちは。

曇り空とはいえ，大事な土曜日の午後の時間，予定をやりくりさせながら御参加いただいた方もいらっしゃるのではないかと思います。

そしてまた，席のつくり方も，日頃，私たちが使っている使い方とは違う，ちょっと重い緊張感が漂っているということを感じながら定刻までの時間を過ごしておりました。

本日は，見川地区市民懇談会に御出席いただきまして，本当にありがとうございました。

有益な集まりになりますように，私たちも頑張りたいと思いますので，皆様もぜひ御協力いただけたらと思いますので，よろしくお願いいたします。

私は，本日の進行係を務めさせていただきます住みよい見川をつくる会の役員をしております○○と申します。

先ほど申しましたように，ちょっと強い緊張感の中で進行係をするというので，不安がたくさんあるのですが，皆様方の御協力をいただいて，実のある集まりを無事終えるように務めてまいりたいと思います。

それでは，初めに，開会の言葉を，住みよい見川をつくる会の○○さんにお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○住みよい見川をつくる会Ａ　開会の言葉

皆さん，こんにちは。

水戸市長高橋靖様をはじめ行政の方々の出席をこういう形でやっていただきまして，ただいまから，令和６年度見川地区市民懇談会を開催したいと思います。

皆さんにとって有意義な日になりますように，よろしくお願いいたします。

○司会

続きまして，恒例のことでございますが，市民憲章唱和をいたしたいと思います。

住みよい見川をつくる会の○○さんにお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

○住みよい見川をつくる会Ｂ　市民憲章唱和

皆様，どうぞ御起立をお願いいたします。

水戸市民憲章

わたくしたちは

いつも若く　あすをめざす

伝統ゆかしい　梅の都

水戸の市民です

　１つ　自然を愛し　美しいまちにしましょう

　１つ　教養を深め　文化の高いまちにしましょう

　１つ　仕事に励み　豊かなまちにしましょう

　１つ　きまりを守り　住みよいまちにしましょう

　１つ　心を合わせ　楽しいまちにしましょう

ありがとうございました。

御着席ください。

○司会

続きまして，見川地区市民懇談会の開催に当たりまして，住みよい見川をつくる会会長から御挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○会長　挨拶

皆さん，こんにちは。

本日は，忙しい中をお集まりいただきまして，本当にありがとうございます。

見川地区は人口１万2,000人ぐらい，そして，見川中学校区では２万5,000人ぐらいになります。水戸市の人口が27万人，ですから，大体１割の人口が住んで，そして，水戸市のど真ん中，水戸の臍でございます。そういったところが見川地区ではないかと思っております。

そういったところで住みよいまちづくりを進めていきたい，安全・安心なまちをつくっていきたいというのが私たちの願いでございます。

そういったことの中で，住んでいる２万5,000人の人口構成はどうなのだろうということを見ますと，例えば，18歳から60歳ぐらいのいわゆる生産年齢と言われる方々が水戸市の中では割合が２番目に多いのです。つまり，それだけ活気のあるまちではないかと私は思っております。

だけれども，こどもたちの数がだんだん少なくなっている。また，高齢化も進んでいるということも言われております。

そういう中で，新しいまちづくりもしていかなければならないのではないかということを住みよい見川をつくる会では思い立っておるわけでございます。

折しも，水戸市も第７次総合計画という立派な計画を立てていただきました。そして，まちづくりという点では，第４次コミュニティプランを作っていきましょうという計画も立てられております。

そういったものに応えていこうではないかというのが今日の市民懇談会の趣旨になるのではないかと思います。

そういうわけで，いろいろな年齢層がいるわけですが，今日の懇談会では，その幅の広い年齢層が強い絆を築いていくということで，みんなが助け合い，共助の世界をつくり上げていきたいと思っております。

そういうことで，今日は，中堅の方の御提案と，そして，もっともっと若い，今，子育て最中の方の御意見をいただいて，市の方々から，こういうこともいいねというようなお答えというか，支援をしていただきたいという気持ちで開かせていただきました。

ここに提案がありますように，２つの大きなテーマを作りました。一つは，多世代交流という話で，学習広場を何とかしてください，そして，もう一つは，子育てを支援してください，という具体的な内容もございます。

私たちは，水戸市の資産は教育資産だと思います。教育資産の中で，我々がずっと生涯学習を進められるような地域をつくっていきたいと思っておりますので，これから発表なさる方々にぜひいろいろな質問をされ，私はこう思うというようなことも言っていただきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

○司会

ありがとうございました。

続きまして，お忙しい中をわざわざ御臨席いただきました高橋靖水戸市長から御挨拶をいただきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

○高橋市長　挨拶

皆さん，こんにちは。

水戸市長の高橋でございます。

見川地区の市民懇談会を開催していただきましたところ，皆様方には，お休みのところ，あるいは，もしかするとどこかにお出かけになる予定があったかもしれませんが，この懇談会を最優先にしていただいて御出席をいただきましたこと，心から御礼と感謝を申し上げたいと思います。

また，開催に当たりましては，○○会長をはじめといたします住みよい見川をつくる会の役員の皆様方に大変な御労苦をいただきました。心から敬意と感謝の意を表したいと思います。

また，皆様方には，常日頃から，地域コミュニティの推進や，あるいは防災・減災など，安全・安心な地域づくりに大変な御尽力，そして，お力添えをいただいておりますことにも心から感謝を申し上げたいと思います。

先ほど，会長のほうから，コミュニティプランを新たに作るという話がありました。地域のコミュニティが非常に減退をしているというか，非常に厳しい状況になっている中で，今，町内会の加入率も全体平均では50％程度になってきてしまっているということでございまして，見川はちょっといいのですが，そこは懸念をしている状況でありまして，以前に作ったコミュニティプランがもう七，八年前になってきてしまっているものですから，新たな時代を反映したコミュニティプランを作っていこうということで，今，各地区の皆様方と協力しながら，新たな時代に即したコミュニティプランの作成に着手させていただいたところであります。

見川地区の皆様方にも，10年前と今を比較した場合に，変わっていること，もっと力を入れなければならないことが違ってきているのだと思うのです。そういうところを勘案しながら新たなコミュニティプランを作って，地域と私たち行政としっかり連携・協力しながら，まさに住みよい見川をつくる会の名前のとおり，住みよい見川をつくっていけるように，しっかりと私たちが協力し合っていければと思っています。

さて，先ほど，会長のほうからも第７次総合計画の話がございました。皆様方のお力添えをいただいて，各地域も回らせていただきながら，いろいろな意見を聴取して，第７次総合計画を作り，この４月１日から開始させていただきました。

平成26年に作った向こう10年の計画である第６次総合計画「みと魁プラン」があるのですが，それと違うところもございます。大きく違うところは，ざっくり言うと，「ハードからソフトへ」でございます。第６次総合計画のときには，例えば，震災があって市役所が使えなくなった。市民会館が使えなくなった。国体があって，体育施設を整備しなければならな

くなった。大きなところでは，小吹の清掃工場が老朽化して，修繕費が毎年かさむ状況の中で，早く移転をしなければならないというところがあって，そして，清掃工場を常澄の下入野につくらせていただいた。ということで，どちらかというとハードの部分が大きくありました。

ただ，一方で，子育て支援とか福祉の充実を図っていかなければならないということで，保育所をとにかくつくりました。定数を２倍ぐらいにしました。私が就任した頃は3,500人ぐらいだったのですが，今は6,200人から6,300人ぐらいになりまして，倍増近くさせました。

それから，特別養護老人ホームをこの10年の間に相当つくってきました。もちろん，これは民間に補助金を出させていただいてということなのですが，全ての団塊の世代の方々が後期高齢者になるというのが来年の2025年で，それを見据えた形で介護施設等も整備をしてきました。

おかげさまで，人口は茨城県全体の８％なのですが，介護施設，あるいは介護事業所の11％が水戸市に集中しているということでございまして，よほど何か難しいことがない限り，水戸市で介護の様々なサービスが受けられるというぐらい民間の事業所の方々に頑張っていただいて，事業所を設置していただいています。

ただ，一方で問題なのは，介護サービスがよければよいほど，あるいは，使いやすければ使いやすいほど介護保険料が高くなるという宿命がありまして，いかにサービスはよくして，介護保険は安くするか，ブレーキとアクセルをどうやって踏んでいったらいいかということが今後大きな課題になります。

私は今，茨城県市長会の会長をやらせていただいているのですが，国へは，一般の方々の保険料が高くなってきて限界だと，給付の率を見直していこうと，市町村もお金を出すから，茨城県にも出してもらって，国も頑張ってもらって，私たち公費で負担する部分を大きくしていきましょうという要望を，今，茨城県市長会としては出させていただいています。

皆さんの保険料がそんなに高くなく，いいサービスを受けられるという仕組みを，これから，国，県，市町村がしっかり連携を取りながら，制度の見直し，あるいは構築を図っていかなければならないと思っています。

ちょっと横道にそれましたが，先ほど言った四大プロジェクトに代表されるようなハード事業をやってきたのですが，第７次総合計画では，子育てとか，高齢者の福祉とか，医療とか，あるいは中小企業の対策とか，いろいろな支援策があるのですが，まずは各方面への支援策を強化していきたいということで位置づけをさせていただきました。

その中でも，特に子育てに関する支援策を充実させていこうということで，３つほど決めさせていただきました。保護者の経済的負担の軽減とか，悩みを抱えながら子育てをしている方々に対して，相談支援をしっかり強化するとか，あるいは，こどもたち自身が活動したり活躍するという場所をもっともっと増やしていこうとか，そういう３つの柱を持って子育て支援政策をやっていこうということを第７次総合計画の中の一丁目一番地，一番やらなければならないこととして位置づけをさせていただきました。

さらには，若い人たちにこの水戸市を選んでいただく。そういうまちにするためにはどうしたらいいかということを考えたときに，働く場所なのです。安定的な収入を得られる場所，これがまちにあることによって，安心して住めるのだろうということで，企業立地とか，あ

るいは中小企業への様々な支援対策とか，観光振興とか，中心市街地活性化とか，そこの空き店舗利用とか，そういう働く場所の確保，それから，雇用の増進をしっかり力を入れていくことによって，若い人たちが水戸で住んで，水戸で働いて，水戸で子育てをして，水戸で暮らしていくという好循環をつくっていきたいという思いがあって，若い人たちの働く場を確保するという経済対策を重要な政策として位置づけさせていただきました。

もちろん，若い人たちばかりではなくて，高齢者の方々も，先ほど申し上げたとおり，2025年問題が来年に迫っているわけでありますから，医療とか介護をしっかり手当てをしていきませんと安心して生活できないということになりますので，特に医療の部分には第６次総合計画からこだわってきたのですが，今，水戸地区の地域医療構想というのがあって，特に公的病院の再編計画みたいなものが持ち上がっているのです。済生会病院，協同病院，日赤病院，水府病院の４つを公的病院と言うのですが，これを統廃合したり，機能変えをしたり，例えば，高度急性期をやめて急性期にしたり，慢性期にしたり，あるいは地域包括ケア病床にしたり，必要なものに転換していこうということが柱となっている議論をしているのです。

ただ，水戸市は，この４つの病院を中心に，救急とか，周産期とか，小児とか，100点満点ではないけれども，きちんとした機能を持っているのです。この地域医療構想に基づく議論の中で，水戸市からこれらの機能が流出するとか，あるいは低下してしまうということがあってはならないということをずっと抵抗してきたのです。

いよいよ地域医療構想の議論が具現化する段階に来ているのです。ここでもし水戸市がしょうがないということでひるむことがあると，どんどん医療機能が別なところに流出したり，あるいは，医療費を抑えるために機能を変えてしまうことがないようにきちんとチェックしなければならないと思っています。

医療とか福祉などの安心の部分，安心は防災・減災もそうです。災害対応をきちんとするということ，そういう安心という部分にもしっかり力を入れていかなければ，皆さんが本当に安心して住める水戸市にはならないということでございます。

つまり，今，話を申し上げたとおり，子育て支援，若者を中心とした経済対策，高齢者とか弱い人たちの立場に立った安心とインフラをいかに整えるか，この３つを柱としているのが第７次総合計画で，つまり，冒頭に申し上げた全てソフト事業であります。

大きなものとしては，南部地区の笠原周辺に図書館を１館つくろうというハード事業を盛り込ませていただいておりますが，あとは市民センターの長寿命化とか，あるいは小中学校の長寿命化とか，あるいは体育館へのエアコン設置とか，そういったところをハード事業としては盛り込ませていただいておりますが，冒頭申し上げたとおり，ソフト事業の展開，特に子育て，教育によって若い人たちに選ばれるまちにしていこう。そういうところに力を入れているのが第７次総合計画でございます。

そういったことを踏まえながら，今日はこのような議論をいただくということでありますので，私たちも皆様方の意見を参考にさせていただきながら，あるいは，いろいろ取り入れさせていただきながら，今日はいろいろと学ばせていただくということも頭に入れてお伺いさせていただきました。

これから皆さんと様々な意見交換の中で，見川地区の発展，そして水戸市の発展につなが

るような施策が生み出されればということを期待しながら，あるいは，自分たちでもそうしようという自覚をしながら，この時間を有意義に過ごしていきたいと思っております。

改めまして，本日，このような会を開催していただきました〇〇会長をはじめといたします見川地区の皆様方に心から御礼と感謝を申し上げまして，私のほうからの御挨拶とさせていただきたいと思います。

限られた時間ではございますが，どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

〇司会

ありがとうございました。

次に，これも私たちの行事で恒例のことなのですが，本日も何人かの来賓の方をお招きして，御参列をいただいております。

ただいまから紹介させていただきます。

水戸市議会議員のマーサー川又さん，ありがとうございます。

〇マーサー川又市議会議員

皆様方の地域をよくするために頑張りますので，よろしくお願いいたします。

〇司会

同じく，水戸市議会議員の中庭由美子さん，ありがとうございます。

〇中庭由美子市議会議員

見川を発展させていくためにこれからも頑張っていきます。よろしくお願いします。

〇司会

続きまして，本日，市のほうから御出席いただいております市の執行部の方々の御紹介と，市民懇談会記録書の作成等に関する御説明を兼ねて，市民相談室からお話をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

〇事務局

市側の出席者の紹介をいたします。

市長公室長の佐藤則行でございます。

〇佐藤公室長

佐藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

〇事務局

市民協働部長の小嶋いつみでございます。

〇小嶋市民協働部長

小嶋でございます。よろしくお願いします。

〇事務局

こども部長の野口奈津子でございます。

〇野口こども部長

野口でございます。よろしくお願いいたします。

〇事務局

見川市民センター所長の五上正嗣でございます。

〇五上見川市民センター所長

五上です。よろしくお願いします。

○事務局

みとの魅力発信課長の櫻井学，以下，事務局の市民相談室の職員でございます。

○櫻井みとの魅力発信課長

どうぞよろしくお願いします。

○事務局

どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして，市民懇談会記録書の作成等について御説明いたします。

本日の市民懇談会は，市民からの意見・提案等を広く求め，市民と行政との協働によるまちづくりを推進していくため開催するものでございます。

懇談時間といたしましては，午後３時までの90分としておりますので，あらかじめ御了承いただきますようお願いいたします。

市民懇談会での御発言等をまとめました記録書につきましては，市民相談室において作成し，市民の皆様に御供覧いただけるように，各市民センター等に設置するなどして公表してまいります。

なお，記録書には，提案者のお名前は記載せず，発言内容のみを記載することを予定しておりますので，あらかじめ御了承いただきますようお願いいたします。

説明は，以上でございます。

○司会

これからは，本日の懇談会のメインの部分に入っていくことになります。

見川地区の住民の側からの要望を申し上げ，それに対して，市の担当者の方々から御回答をいただくという形でのやり取りが進められてまいります。

その対話の整理，進行役であります座長を，住みよい見川をつくる会会長にお願いしたいと思います。

○○会長，お役目，よろしくお願いいたします。

○座長（会長）

着座で申し訳ございません。

ただいま御指名をいただきました○○です。

不慣れでございますが，進行役を務めさせていただきたいと思います。

今回は，こちらにありますように，２つのテーマに基づきまして進めてまいりたいと思っております。

このテーマ以外で御質問とか御意見があると思うのですが，テーマに関わらないものは，質問用紙を用意しておりますので，もしありましたら，質問用紙に御記入いただいて，提出していただきたいと思います。

回答は，市のほうから個人宛てにあると思います。

そういうことで，今日はこの２つのテーマについて進めさせていただきたいと思います。

それでは，早速，お時間もありますので，進めてまいりたいと思います。

１つ目は，「多世代が交流する総合的学習広場の構築」ということで，住みよい見川をつくる会の副会長をしております○○さんにお願いいたします。

よろしくお願いいたします。

○住みよい見川をつくる会Ｃ

（別添資料をもとに発表）

住みよい見川をつくる会の○○と申します。

簡単に自己紹介をしますと，名古屋生まれの名古屋育ちで，水戸に来て30年になります。その半分は東京にいたので，企業を卒業して，今，水戸に定住をしたということで，まだ十分水戸市のことを理解していないところがあるので，御指摘いただければと思っております。

では，始めさせていただきます。

今日のテーマは「多世代が交流する総合的学習広場の構築」で，見川の方たちが温めてきた課題でして，今日はこの３人でお話しさせていただきます。

このテーマを考えるに当たり，参考にしたところがございます。それは，ＮＨＫで2022年に放映された「ごちゃまぜに生きていく」という石川県の社会福祉法人の佛子園というところのお話を参考にして展開しました。

ちょっとだけ読ませていただきますと，障害者，高齢者，大学生，学童，地域の人，立場や世代の異なる人々が，分け隔てなく混ざり合う街，「ひととひとのつながりで化学反応をおこす」というコンセプトです。これは縦の関係と横の関係を強い絆をつないで展開されているのを参考にしました。

現在映し出されているものが住みよい見川の事業活動(イメージ図)です。縦と横の軸は年齢でございまして，利益を受ける年齢というのが書いてあるのですが，縦軸は利益を与えるほうの年齢です。例えば，左側から御紹介しますと，水戸市の活動で初期から現在も活発な活動をしている青少年育成会とか子ども会育成会，この縦軸は関わっている人たちの年齢で，与える人たちは，中学生とか小学生になります。

2008年から水戸市の初の活動ということで，見川の女性会が子育て支援ということで，20歳から40歳代の方のサポートをしていく活動，それから，社会福祉協議会ということで，65歳以上から上の方たちをサポートしているということで，同じぐらいの年齢の方たちがサポートしている活動がございます。

次のスライドに行きます。

住みよい見川の新事業の構築ということで，これもイメージ図ですが，１番目の新しい企画は，子ども会・青少年育成会，年齢で言うと，このあたりの年齢がいわゆるシニア以上の方たちに与えるという活動を企画しました。

もう一つは，60歳から80歳代ぐらいのシニアという経験をいろいろ持っている方たちが，その下を見ると，０歳から60歳ぐらいまでの方に与えるという企画を考えました。

具体的にお示しします。

１つ目の新企画です。2023年度，住みよい見川で，司会の○○さんがやられたテーマで，「スマホ，もう一歩前進」というのをやりました。

課題としては，皆さん「スマホを買うのですが，携帯電話会社の講座に行くと，通り一辺倒な話で理解できない。」，それから，「有料の講座で，一度で理解することができないのだけれども，困ったときに相談する先がない。」。

これを，計画として，指導者にジュニアリーダーズという中学生，高校生会にサブリーダ

ーズを依頼しまして，受講者はシニアの携帯ビギナーズという構成でやりました。

成果としては，３回実施しまして，延べ60名，サポーター延べ18名に参加していただきました。受講者の感想としては，「家族とか孫にはなかなか聞けないのだけれども，質問しやすいね。」，それから，「講座終了後も，参加者同士，ジュニア，高校生とつながりができて，不明なところは聞けるようになった。」，それから，「自分たちはいろいろな団体に入っているわけですが，ＬＩＮＥを使って案内ができるようになった。」，「今まで遠いところまで郵送したり持っていかなければいけなかったのが楽になった。」，それから，「携帯電話のリスクがよく分かるようになった。実際に，ＳＮＳで，宅配で届けたのだけれども，不在でしたねと。住所を教えたために，空き巣に入られてしまった。こういうリスクも知っておけばよかった。」という感想がありました。

指導者側からは，「自分も役に立つことが分かった。これからも地域の役に立ちたい。」と言ってくれたのです。これは結構大事なことだと思うのです。ここはすごく感激しました。

要望として，次回は，水戸市に関するようなテーマなどを決めて開催してほしいということがございました。

2024年度の新事業の計画として，２つの新企画を計画しました。

社会福祉協議会の場所を借りまして，夏休みに，「見川」多世代ふれあい広場を計画しました。大学生，シニア，遊びの達人などいろいろ書いてありますが，後ほど紹介いたします。

１つ目の企画です。

2024年度「スマホの達人」ということで，この関連団体が一緒にやりました。

課題としては，「水戸市の市報が今月から月１回になる。」，「年齢を重ねるにつれて行動範囲が狭くなって，情報が簡単に得られない。」。

計画としては，同じように，ジュニアリーダーズ，高校生会，シニアの携帯ビギナーズを集めました。

実施の内容としては，スマホのＬＩＮＥを使って，これは大妻女子大のテキストを使うのですが，人生100年時代のシニアへの変身。

それから，水戸市の情報ですが，今，ＬＩＮＥでいい情報がいっぱい入ってくると思うのです。それを使えるようにしよう。

それから，水戸市市民センターのイベントをホームページで知るようにしましょうということをしました。

それから，防犯アプリ，水戸市の警察署から提供を受けた「いばらきポリスの活用法」を使おうとしました。

それから，グループラインをつくって情報発信の練習をしよう。

残念ながら，この企画は８月に台風が接近してできなかったのですが，12月の間にリベンジマッチをする予定です。

２つ目の新企画です。

「学習の達人」，「遊びの達人」と遊び心が入っていますが，課題としては，「今，子ども会の会員がなかなか交流する場がない。」，「シニアも活躍する場がない。」，「世代間のギャップが広がっている。」です。

これを，計画として，夏休み期間中に気兼ねなく見川市民センターに宿題を持ってきてよ

と。遊び場所を提供しますということをやりました。

シニアとしては，小学校の先生を退職された方が５名ほどいたのですが，それから，ボッチャとかオセロとか，高年齢になるほど強い方たちがいるので，遊び相手になってもらおうと。

それから，茨城大学の地域未来共創学環というコミュニティを研究している学生さんたちに来ていただいて，この企画を分析してもらって，次のコミュニティのあり方を検討しようということを計画しました。

残念ながら，「スマホの達人」と同日でしたので，台風のためできなかったのですが，12月の間に実施する予定です。

今後の現事業と新事業の枠組みですが，今御覧いただいているスライドのように，こういう縦の枠組みが随分できてきました。もっともっとつくらなければいけないのと，水戸市が提供している縦の関係を使いながら，あと残るは横軸を串刺しにする。これをしないと，網目状につくらない限り，強い絆はできないので，これをやろうとしているのです。これはこれから考えていくわけですが，これが今年度の一番の課題だと思っております。

住みよい見川の活動の目指すところとして，見川地区に多世代が交流し，複数の課題をワンストップで解決する共助の場をつくろうということで，今映し出されているスライドがみんなで遊んでいる様子なのですが，当然，いろいろなことを検討しなければいけないし，企業と連携もしなければいけない。

これで足りないのは水戸市の連携で，この推進力となるものは水戸市との連携だと思っております。

最終ゴールの設定としては，第４次コミュニティプランにも書いてある水戸市の姿，住んで楽しい，持続可能なコミュニティ，こういうような場で体験してもらって，水戸市に生涯住みたいという「ＦＵＮ」の増加につなげるということを目論んでおります。

提案ですが，「スマートコミュニティ住みよい見川」，新規事業計画「多世代が交流する総合的学習広場の構築」については，現在，試行実験も行いつつ考えを磨き上げております。

この事業を形にするには，最終的には市の関係部署の職員や，社会福祉協議会等の市関係機関からの何らかの協力をいただくことになる可能性が高いことが見込まれます。

そこで，協力を得る際には，各組織がしっかりと横の連携をとれていることが重要と考えております。

一方で，現時点で市の協力を得ようとした場合，基本的に市民センター所長が対応する形となっているため，横のつながりを強化しづらいのが現実だと思います。

そのため，市民センター所長だけでなく，その他の関連部署の職員等からもアドバイスをいただけるよう，現行制度の拡充・充実をお願いしたいと考えております。

何とぞ御検討のほどよろしくお願いいたします。

この企画を考えるに当たって，市民相談室，見川市民センター所長にもアドバイスをいただきました。本当に感謝いたします。最後に，この企画に御協力いただいたことを御紹介いたします。

以上でございます。

○座長

ありがとうございました。

市のほうから御回答をいただいた後，ちょっと討論しましょうか。

では，市のほうから，今のことについて，御回答できるところはお願いいたします。

○小嶋市民協働部長

地域のコミュニティを担当しております市民協働部から回答させていただきます。

御提案の「スマートコミュニティ住みよい見川」を構築する事業につきましては，地域の皆様が地域づくりに参画するすばらしい取組であると考えております。

今後も，ますます地域の輪，活動の輪を広げていただいて，事業を充実させることを御期待申し上げるところでございます。

本市では，見川地区以外においても同様に，それぞれの特性に合った取組が行われる必要があると考えております。特に，地域コミュニティの活性化に向けまして，自らの地域で，地域の愛着を持って活躍できるリーダーを育成していただくことが大変重要と考えておりまして，研修会も開催しているところでございます。

令和６年度は，８月に，先ほどもお話がありましたが，新たな地域コミュニティプラン作成の研修会を開催させていただきました。そしてまた昨日，地域リーダー研修会を各地区の役員様を対象に開催させていただいたところでございます。

見川地区からは２名の役員さんに御出席いただきまして，大変感謝しているところでございます。

研修で得た知識をぜひ地区の皆様と共有していただきまして，地区のまちづくりに役立てていただけたらと考えているところでございます。

先ほど，市長が申しましたとおり，地区会・町内会の加入率が低下しておりまして，地域コミュニティへの支援が求められている中，地域における市民センターの職員が担う役割というのはますます大きくなっていると認識しております。そのため，地域の最前線で住民と共にまちづくりを進める市民センターの職員は大変重要な役割になっていると考えており，幅広い分野で地域を支援できるよう，引き続き，職員のスキルアップに努めてまいります。

また，市民センターにおいては，必要に応じて，関係部署をはじめとした関係機関との連絡調整を行い，地域につなげるなど，コミュニティ活動の促進に向けて，相談体制の充実・強化に努めてまいります。

今後とも，住みよいまちづくり推進協議会との連携を深めるとともに，市民センター職員がコーディネーター役としてしっかりと引き継ぎ，各地域コミュニティを支援し，地域課題の解決に当たってまいりたいと考えております。

そして，地域コミュニティの充実を図り，安全で安心して暮らせる地域コミュニティづくりを目指してまいります。

回答は，以上でございます。

○座長

ありがとうございました。

○○さんの提案と今の御回答を合わせて，提案のほうにもこういうこともあるのではないかとかいうことがあれば，それもよし，それから，市のほうの御回答，市のほうの御意見に対しても，何か御意見があれば伺いたいと思います。

どうでしょう。言い放しではつまらないということで，皆さんのお話も聞きたいなと思っております。

○○さん，ありますか。

○住みよい見川をつくる会Ｄ

しゃべりたくなかったのですが，座長からの御指名なので，しゃべらせていただきます。

今の発表を聞いて，すばらしい内容だなと思いました。こういう事業を展開するというのは，水戸の誇りだし，見川の誇りだし，水戸でもこういうことをやっている場所はないのではないかと思うし，全国にもないのではないかと思うのです。これは何かの雑誌に出して，原稿料をたくさんもらったほうがいいと思います。

ちょっと質問をしたいのですが，それぞれの講座で，参加者は何人ぐらいだったのですか。

○住みよい見川をつくる会Ｃ

令和５年度は延べ60名です。これはシニアの方です。65歳以上と言ったほうがいいと思うのですが，これが60名。

○住みよい見川をつくる会Ｄ

これは延べ人数ですか。

○住みよい見川をつくる会Ｃ

延べです。３回やったのですが，１回に20名ぐらい参加していただきました。

○住みよい見川をつくる会Ｄ

分かりました。

それで，20名では，せっかくこういう立派な講座なので，もっと人数が多いほうがいいと思うのです。これは実技指導ですから，人数が少ないほうが丁寧に個々の指導をできると思うのですが，でも，せっかくこれだけのエネルギーを使うのですから，もっと人数を集めるということが必要だと思うのですが，どういうＰＲの仕方，どういう募集の仕方をなさったのですか。教えてください。

○住みよい見川をつくる会Ｃ

基本は，回覧をしました。回覧をしても，なかなか皆さんに見ていただけないので，例えば，このケースですと，高齢者クラブの方たちに集めていただくとか，そういう活動をしました。

ですから，今，Ｄさんがおっしゃったように，もっと効率よくたくさん集められて，これを周知できるような仕組みを考えないとうまくいかないなというふうに感じています。

○住みよい見川をつくる会Ｄ

私がいろいろ事業をやって，一番大事なのは，まず内容が非常に大事ですよね。内容がしっかりしていれば，だんだん集まってくるのですが，それよりも，手法として，ＰＲが本当に大事だと思うのです。

ＰＲの仕方としては，私が昔から考えているのは，かつて日本の一流航空会社を視察したことがあって，そこで勉強をしたことがあるのです。それには，１回だけ，ばーんと回覧だけではだめだと。今，お話を伺って，いろいろな機関に連絡をして，たくさん集まったと思うのですが，さらに集めるためには，繰り返しというか，テレビのコマーシャルだって１回ではないのです。何回も何回も繰り返して，見川でこういうすばらしい「スマホ，もう一歩

前進」をやっているのだということを，そういういろいろな口コミとかマスコミとか広報紙とかを使ってやるということが非常に大切ではないかと思います。

そういう面で，さらに発展・充実させるためには，そういう点も，もう一度，さらにお考えいただければいいのかなという感想を持ちました。

以上です。

ありがとうございました。

○住みよい見川をつくる会Ｃ

おっしゃるように，市報が１回になると，12月のイベントはこの10月の末に出さなければいけないのです。そうすると忘れてしまうのです。だから，おっしゃるように，繰り返し，繰り返しやる方法を考えてみたいと思います。

ありがとうございます。

○座長

ありがとうございました。

そのほかに何かございますでしょうか。

では，市長さんから何かおありのようで。

○高橋市長

ありがとうございました。

まさに地域コミュニティプランを作るに当たって，こういうことを私たちは望んでいて，地域の特性を生かして，地域の人材とか，あるいは地域資源とかを生かして特長あることをやっていただこうというのが私たちの願いでもあるのです。

これは私からの情報提供なのですが，もしかすると，これをもう少しブラッシュアップかけて，ちょっと手続は大変なのですが，この事業がうちの「わくわくプロジェクト」の対象になるのではないかなと思ったりもしました。

「わくわくプロジェクト」というのは，水戸市との共催事業になるのですが，これは審査が結構厳しくて，大学の先生がトップになった審査機関があるのですが，そこで合格すると，最高50万円を３年間もらえるのです。

何に幾らお金がかかるという会計までやらなければならないという面倒さはあるのですが，自治会としてそこに申し込むというのは，ある意味，異例なのです。大体ＮＰＯ法人とか，自分たちで実行委員会や任意団体みたいなものをつくったりしてやるのですが，自治会として申し込んでも別に悪いということではない。各種団体から募集していますので。

もしかすると，審査会のほうでは，もう少し項目を絞れというふうに言われるかもしれないのですが，やっているところを，幅広ではなくて，少しぎゅっと絞った部分のところで「わくわくプロジェクト」に申し込んでもらって。私は審査員ではありませんので，合格するかどうかは分かりません。結構厳しいといえば厳しいのですが，でも，こういうところでも合格するのだなというものも合格していた。

年に何個ぐらい合格しているのだっけ。

○小嶋市民協働部長

予算は350万円ありまして，最大７団体までですが，今は５枠。

○高橋市長

最大７団体に補助金を出せるのですが，今は５団体しか補助金を受けていないのです。なかなか応募がないのです。逆に少ないので，こちらとしてはもっともっと応募を増やしたいのです。

今，５団体しか合格していないのですが，うまくやれば，「わくわくプロジェクト」の対象になると，先ほど言った横の連携がまさにできるのです。この事業自体が水戸市と住みよい見川をつくる会が共催になるのです。そうすると，うちも関係部署が関わってこの事業をやったりしますので，横の連携なんかをうまくやって，３年たったら，４年目からは自立していただかなければならないのですが，ただ，３年の間にそういう仕組みをつくれば，何か面白いことができるのかなというふうに，今，思いましたので。

ちょっと申請が大変なのですが，お金をうちで出すものですから，何に幾らかかるかみたいなものまで申請してもらわなければならないのですが，ちょっとチャレンジしてもらってもいいのかなと，これができれば面白いなというふうに私も思ったものですから，ぜひそういうのにもチャレンジしていただければと思います。

情報提供です。

○住みよい見川をつくる会Ｃ

アドバイス，どうもありがとうございました。

○座長

ありがとうございます。

住みよい見川をつくる会としても，ぜひやってみたいなと思いますので，今後，今の提案をもっともっと具体化させていただきたいと思っております。

○高橋市長

やる場合には，締め切りがありますので。

11月から，もう来月から募集です。早くつくらなければならない。間もなく募集開始です。

○座長

ということで，大急ぎでいろいろやっていただくことになるかもしれません。よろしくお願いいたします。

では，どうもありがとうございました。

○住みよい見川をつくる会Ｃ

どうもありがとうございました。

○座長

続きまして，若い方々にお話をしていただきたいと思います。

今度は，お二人の方，見川小学校のＰＴＡ会長であります○○さん，それから，子育て応援・ペンギンくらぶ代表の○○さん，お二人のほうから。令和６年，見川幼稚園が廃園になりました。その跡地は，小学校の２階に上がって見てみますと，かなり広大な広場になっております。そこを何とか活用した形で子育て支援施設ができないか。ただ，子育てだけではなくて，今，○○さんのお話にあったように，その中に多世代が入れるというようなことだと思いますので，そういう点から，若い方の御意見をお伺いしたいと思います。

よろしくお願いします。

○住みよい見川をつくる会Ｅ

皆さん，こんにちは。

ただいま紹介いただきました見川小学校のＰＴＡ会長を今年から務めさせていただいています〇〇と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私からの提案は，子育て世代への支援体制の強化をお願いしたいということになります。

理由としましては，ここ数年，見川小学校に入学してくる児童の出身園は皆さんばらばらで，見川小に入学する園児が１人しかいないという園もあり，多くの親子が小学校の入学に不安を抱いているのが現状です。

また，近所からのクレームなどがあり，遊べない公園などがありまして，こどもたちが安心して遊べる場所が少ないような感じを受けております。

このことから，地域内で子育ての不安を相談できて，こどもたちが安心して遊べる施設をお願いしたいと考えております。

例えば，平須にあります「ふれあいの館」のような，地域の子育て支援の拠点になるような施設を見川の地区にもつくってほしいと考えております。

入学前の小学校に対する不安から，通学路で親から離れることができずに泣いている子や，校舎に入ることができずにいる子をたくさん見かけます。小学校入学の前に，いろいろな園のこどもたちが親子で交流のできる場所を確保していただきたいと考えております。

私からの提案は，以上になります。

ありがとうございます。

〇座長

ありがとうございました。

それでは，続いて，〇〇さんのほうからお願いします。

〇住みよい見川をつくる会Ｆ

（別添資料をもとに発表）

続きまして，〇〇と申します。

現在映し出されているスライドには，子育て応援・ペンギンくらぶの代表ということで，何のクラブだと思うかもしれませんが，もう20年以上，水戸市内で子育て支援ということで活動している団体です。以前はＮＰＯ法人も取得したことがございますが，団体の規模の関係で，今は任意団体として子育て応援・ペンギンくらぶという名前になっております。

私自身は見川に住んでいまして，このような場所に立たせていただいております。

また，子ども会のほうにも長年関わっておりまして，水戸市子ども会育成連合会の理事もしておりますので，こどもやその保護者などと関わっていることが多いので，この場に立たせていただいていると思います。どうぞよろしくお願いいたします。

先ほどからお話があります見川幼稚園が廃園になりました。これは見川に住んでいる者にとってはかなりショックだった。あそこにあったプレハブもなくなってしまって，今，更地になっている状態です。あれがとても寂しく感じます。

そこで，見川幼稚園の跡地に何かできないかということで，私たちが提案しております。

見川小学校区には保育施設が１つもありません。子育て関連施設ゼロです。小学校はありますが，幼稚園，保育園はないということで，そうしますと，小学校１年生になるときは，学校の学区以外の幼稚園や保育園に行っていた子たちが集まるということで，そうでなくて

も「小学校１年生の壁」というのがあるのですが，そこでまたいろいろな幼稚園・保育園から集まって，地元の見川幼稚園に行っていた子がいないということで，不安な小学校１年生が多いというお話が先ほどもあったと思います。

そこで，子育て世代が不安にならないために，地域差がない社会，地域づくりのために見川幼稚園跡地の有効活用を望みたいということで提案します。

現状は，幼稚園も保育園もないため，未就学児やその保護者たちに関わることが少なくなってきています。もちろん，構成団体，協力していただいた団体の中にもそんな名前はありません。幼稚園がありませんので，幼稚園ＰＴＡは入っておりませんでした。

見川の市民センターは，先ほどお話があったように，水戸市内で初めて子育て広場を女性会の方々の協力で始めたところです。ということは，見川には子育てに熱い思いのある方がたくさんいるということですね。

この子育て広場というのも，市民センターによっては，月に１回，２回しかできないところもありますが，見川は毎週行われているということで，見川はとても協力的な場所だと思います。

学区内にこだわるのは，歩いて行ける場所，地域の目が届く，多世代が関わることができるということが一番大きいと思います。

学区外の幼稚園・保育園に行っていた子たちが，小学生になっても困らないという地域づくりができるといいのではないかと考えます。

高橋市長のほうから，子育て支援政策について，また，ソフト面の強化ということでお話があったことはとても安心しましたし，心強いと思います。見川でも見川小学校区に地域の子育て支援の拠点をつくって，相談の場所，遊び場，地域の交流，また，こどもたちの居場所づくりや遊び場づくりができるのが私たちの理想だと思っております。

見川幼稚園跡地に子育て支援施設が欲しいというのが希望ですが，現実的には，何か建物を建てるのは難しいのかなと，私自身も現実は分かっております。

理想としましては，各小学校区にあります市民センターを活用して，どこか一部屋使わせていただくという方法がいいのかなとか，小学校にもし空き教室があったら，そちらを利用すると，小学校だったらみんな安心して誰でも入れるのかなと考えておりますが，一応，子育て支援施設が欲しいということをこちらで訴えさせていただきます。

子育て施設といいますが，これは誰でも利用ができる，もちろん幼稚園児，小学生，その保護者，中高生，また大人も関わることで，わざわざ場所を設定しなくても，そういうイベントを行わなくても多世代交流ができる場所になると考えております。

先ほど，公園の話もありましたが，自由に走り回る，自由に遊べる，ボール遊びができないという場所もありますが，校庭を少し使わせていただくことで，限られた空間があると，こどもたちは安心して安全な場所で遊ぶことができます。それにはやはり幼稚園跡地が最適ではないかと考えております。

先ほどの○○さんからの意見も合わせまして，見川幼稚園跡地を利用した子育て支援施設の２人からの提案ということで，こちらにまとめました。

地域の子育て世代が不安にならないよう，安心してこどもの生める環境を整え，地域格差のない社会，地域づくりを進めるために，見川幼稚園跡地の有効活用を望みます。

支援施設の利用・活用は誰でもできます。乳幼児から園児，小・中・高生から大人，誰でも可能です。

校庭を公園的機能にして，走り回る，ボール遊びなどができるようにする。

地域でこどもを育むことで，地域コミュニティを活性化させたい。

このようにまとめさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

○座長

ありがとうございました。

子育てに関して，切実な問題があるのではないかということで，御発表いただきました。

野口こども部長のほうから何かございますか。

○野口こども部長

それでは，見川幼稚園跡地を利用した子育て支援施設につきましては，こども部からお答えさせていただきます。

本市におきましては，限られた財源の中で，ハード事業からソフト事業への転換を基本といたし，市民ニーズを的確に捉えながら優先順位を定め，市立小学校給食費の無償化，第二子保育料の無償化をはじめとする子育て世帯の経済的負担の軽減に最優先で取り組んでいるところでございます。

このため，新たなハード事業を直ちに位置づけることは難しい状況でございますので，新たな子育て支援施設の整備につきましては，子育て支援施策の進捗状況を踏まえながら，水戸市第７次総合計画後期計画を策定する中で検討してまいりたいと考えております。

現在，本市といたしましては，地域コミュニティの核として全地区に設置してある市民センターをはじめとした既存施設を有効活用し，地域における子育て支援を進めているところでございます。

市民センター「子育て広場」につきましては，平成20年度の見川市民センターでの取組を皮切りに順次拡大され，現在は33か所の市民センターで運営していただいているところでございます。

子育て広場は，未就学児とその保護者が気軽に集い，交流できる場となっており，お住まいや幼稚園，保育所等の通園の有無にかかわらず御利用いただけるものでございます。

さらに，見守りボランティアとして地域の女性会の皆様に御協力いただいており，地域でこどもを育むことで，地域コミュニティの活性化や子育て世代の不安解消につながるものと考えております。

また，安全・安心に小学生が勉強や遊びなど自由に過ごすことができる放課後の居場所といたしまして，現在，市内７か所の市民センターの図書スペースや市民サロンを活用して「こどもスペース」を開設しているところでございます。

このこどもスペースに関しましては，小学生が，放課後，一旦お帰りになってから，また市民センターのほうに遊びに来ていただきまして，そこで市民センターをお使いになっている大人の方，また，職員の目が届くところで勉強をしたり，遊んだりと，自由に過ごしていただくスペースになってございます。

見川市民センターをはじめとした未開設の市民センターへのこどもスペースの開設につき

ましても，今後，夏休み等の長期休業期間や平日の放課後において，こどもが優先的に利用できる場所，時間，部屋を確保できるよう，地区会や利用団体の皆様と協議を進めてまいりたいと考えております。

今後とも，地域の皆様の御協力をいただきながら，子育て広場及びこどもスペースの実施に取り組み，子育て世帯同士の交流の場やこどもたちが安全・安心に過ごすことができる居場所の提供に努めてまいります。

また，見川小学校のグラウンドにつきましては，シダレザクラから小学校校舎までの北側の範囲をグラウンドとして整備する予定であり，令和６年度に設計をし，令和７年度と令和８年度で工事を実施してまいります。

しかしながら，完成後のグラウンドの児童１人当たりの面積は，他の市立小学校のグラウンドと比べても狭い状況でございます。そのため，シダレザクラの南側につきましては，現状の更地を整地し，見川小学校が学校活動で必要な際に，北側のグラウンドと合わせて一体的に使用できるようにすることで，児童にとって活動しやすい場となるようにしてまいりたいと考えております。

幼稚園跡地の将来的な利活用につきましては，学校活動での利用状況等を踏まえるとともに，こどもたちの遊び場や地域住民の健康づくり，これらによる多世代交流といった視点から，その在り方について，今後，検討してまいります。

○座長

ということで，あまりいいお返事ではなかったと思うのですが，どうですか。

○住みよい見川をつくる会Ｅ

ちょっと聞いてもいいですか。

グラウンドなのですが，以前の設計では，真ん中に道路が来るような設計だったと思うのですが，それはなくなったのですか。ちょうどシダレザクラのあたり，そこからずっと歩道になっていたのですが，そのまま設計されるのですか。それで，後からグラウンドにするとなると，また二度，三度と工事が入るということになりますよね。

○高橋市長

以前に幼稚園の計画があった頃は，幼稚園の北側のところに通路があって，学校と幼稚園を，ある程度分断させておきませんと，収拾がつかなくなるときがあるので，幼稚園は幼稚園，小学校は小学校ということで，道路の設計があったと思うのです。今も図面が実際にあるのですけれども。

今度は幼稚園ではなくて，まずは先ほど説明でありましたとおり，見川小学校はほかの小学校に比べて，児童１人当たりの運動場の面積がすごく狭いのです。今，500人ぐらいいる中でも，シダレザクラよりも北側だけの面積では狭いので，まずは南側も一体的に使って，フレックスに運動場として使えるようにまずはしておいて。その中で，今後，跡地についてはいろいろ要望があるので，第７次総合計画の後半戦になるか，いつになるかは，いろいろな事業の進捗状況とかそのときの財源の都合とか，そういうことがあるので，今は明確には言えないのですが，まずはグラウンドで使っておいていただいて。普通に設置しておけば何とでもなるので，通路とか何かは設けないで，つないでも使える，あるいは，もともとの北側だけでも使えるというふうに，ちょっとフレックスにしておこうかなというふうにまずは

思っています。

それで，皆さんとの議論の熟度を踏まえて，運動場が狭いのだけれども，狭いままでもいいから，南側に何かつくったほうがいいという結論になるのか，それとも，狭いのだったら，こどもたちのために広く使ったほうがいいよねというふうになるのか，それは，もう一度，皆様方との議論の中で判断をしていかなければならないのかなと思っています。

ちょっとおさらいなのですが，先ほど，○○会長のほうから，いい返事ではなかったと言われましたが，いい返事ではありません。と申しますのは，ちょっと言葉は悪いのですが，やっつけてしまいたいのがあります。というのは，まずは給食費の無償化で，中学校の給食費の無償化をやりました。できるだけ早いうちに，今は小学校は２分の１になっているではないですか。半額にしましたでしょう。それを全額無償化にしたいと思っています。できるだけ早いうちにやっていきたいと思っています。それで大体11億円ぐらいのお金がかかるのですが，その後，やっぱりこれも要望が高いのですが，保育料の無償化をやっていきたいと思います。０歳，１歳，２歳のせめて第二子以降，第一子は当面いただくにしても，第二子以降ぐらいは無償化にしていきたい。これで大体３億円，４億円かかるのですが，まずそのお金を用意して，このソフト事業をまずやっつけてしまいたいと思うのです。言葉は悪いのですが，いわゆる完了させたいなと思う。

そういう皆さんから一番要望の強い経済的負担の軽減を全部完了させてから，またハード事業のほうに移っていきたい。

だから，今，全てハード事業もやり，ソフト事業もやりとなると，さすがに水戸市も，ほかの都市行政もやらなければならないものですから，見川で言えば，見川校区の３・３・２号線の都市計画道路も用地を買ったりしているし，ずっと北側のほうは，岡田橋といって，見和の梅が丘地区になるのですが，松が丘工区の線路をまたぐところをやったり，いろいろな都市行政もやっていかなければならないものですから，子育て支援が一丁目一番地とはいえ，全部そこにお金をかけるというわけにもいかないものですから。限られた財源の中で，優先度は高くしていきますが，そこはバランスをとらなければならないものですから，今はとにかく給食費の無償化とか保育料の無償化とか，場合によっては医療費の完全無償化とか。今は１病院当たり１か月600円だけいただいてしまっていますから，そういうものも無償化にしてしまうとかというようなところも，ある程度，めどをつけないと，次のハード事業に移れないものですから，○○会長がおっしゃるとおり，次の第７次総合計画の後半戦の計画の位置づけの中で検討させてもらいますという，ちょっと奥歯にものが挟まったような言い方で，大変そこは申し訳なかったのですが，先ほど，私が冒頭で話した，まずソフト事業の展開，特に，保護者の経済的負担の軽減をある程度完了させていただいてから，次のハード事業に移りたいなというのが私たちの今の考え方であります。

ですから，当面，今は更地にしておいて，通路は設けずに，フレックスに行き来ができるような形にして，まずは運動場としてお使いくださいと。あとは，そうこうしているうちに，先ほど言ったソフト事業が完了するでしょうから，その間に皆さんともう一度議論をしながら，本当にここに何か施設をつくったほうがいいのか，それとも，こどもたちのために運動場という形で，いわゆる学びの場にしておいたほうがいいのか，そういう議論を，引き続き，深めていければなというのが今の考え方でございます。

○住みよい見川をつくる会Ｅ

ありがとうございました。

○座長

ありがとうございました。

今，市長さんのお話がありましたが，どなたか，そのほか御意見がある方はいらっしゃいませんか。

どうぞ。

○住みよい見川をつくる会Ｇ

見川校区から幼稚園がなくなってしまったということは，私たち80歳を超えた者たちにとっても非常に辛いことであるのですが，そのことについての話を聞く中で，時々感じているのは，水戸市には，小学校，中学校を設置する義務はあるけれども，幼稚園設置義務はない。

もう一方で，私立幼稚園と公立幼稚園とがこどもを取り合いっこする競争も状況の中にあるということをお話の中で伺うことがあるのですが，公立幼稚園が私立幼稚園に負け続けているということの一つの表れが見川幼稚園の廃園なのではないかという非常に強い疑いと無念さとを感じているのですが，少ないこどもたちを取り合いっこするという中で，公立幼稚園が私立幼稚園に負けてしまうということは，公立幼稚園と私立幼稚園に差がなくなってきているということでもある。

これまで私たちが感じていたその一番大きな差は，保育料の違いということが一番大きかったのではないかと感じています。

○座長

申し訳ありませんが，３時までに終わらせたいので，まだ御意見がある方もいらっしゃると思いますし，さらに市長さんからの総括もありますので，そろそろ。

○住みよい見川をつくる会Ｇ

最後に，一言。

今，私はとても乱暴な図式を話してしまっているのですが，見川幼稚園の廃園は，公立幼稚園と私立幼稚園の園児獲得競争の中でどういうものとして水戸市の当局の方々は理解していらっしゃるのか。私は負け続けているのではないかという乱暴な言い方をしました。

○座長

ありがとうございました。

今，議論が幼稚園のほうに行ってしまったのですが，そうではなくて，今，お二人が提案しているのは，今，幼稚園の跡地がありますよね。そこに，もうないのだから，子育て施設をつくってくださいと言っているのですね。それが難しいですよというお返事をいただいた。ただ，四，五年先は考えてみましょうというお返事なのです。ですよね。

○高橋市長

そういうことです。

○座長

それに対して，私たちは，今，ここで，頑張りましょうと言いたいわけです。ですから，幼稚園の負けた，勝ったはちょっとこちらに置いておかせていただきたいと思います。

今，現実として，子育て世代の施設を，幼稚園がだめなら，どこかにでも今すぐつくりた

いということを彼女たちは言っているのだということを分かってほしいと思います。

司会者としてそういうことを言うのはまずいのかもしれないですが，そういうことだと思います。

○住みよい見川をつくる会Ｇ

丁寧な取りまとめ，ありがとうございました。

○住みよい見川をつくる会Ｅ

先ほど，給食費の無償化という話があったのですが，小学校が半額になって，それで満足している保護者は結構いて，それよりも不安は，なくなってしまったことによって，物価の高騰に耐えられず，給食の中身が変わってしまうことをとても懸念しています。

それを第一と考えてくださっているようだったので，保護者がみんなそういうふうに思っているわけではなく，こどもたちの食の安全，食の確保を第一に考えていますということをお伝えさせてください。

○高橋市長

ありがとうございます。

先日，この話は出ましたよね。

実は，水戸市で独自に補塡しているのです。

先日，別なところで若い世代の人たちと懇談会をやったときにも同じ質問が出て，100円でも200円でも取ってくれと。そして，いいものを出してくれということを言われたのですが，いや，こちらは頑張りますと。水戸市で全額無償化すると言ったのですから，無償化して，食材費が上がっても，今でも水戸市で数億円，補塡しているのです。ですから，これから上がった分も，水戸市が頑張って，そこは子育て支援ですから，皆さんが心配ないような給食はしっかり出して，栄養のバランスとかカロリーの確保を図っていきたいと思っておりますので，何か変なものが出てきたなみたいなことがあったときは言ってください。うちの栄養士も頑張っていますので，御指摘いただきたいと思います。

以上です。

○座長

どうもありがとうございました。

それでは，最後に，市長さんに総括をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○高橋市長　総括

３分程度ですので，総括になるかどうか分からないのですが，１点に絞りたいと思います。

皆さんの御心配は，見川幼稚園の跡地のことなのだろうと思います。

先ほど，○○さんから話がありましたとおり，負けということではなくて，逆に今まで民間の幼稚園さんに頑張っていただいて，３年保育とか，水戸市の保育行政，幼稚園行政を引っ張っていただいていました。幼稚園の無償化とか何かで民間のほうにシフトしてきたのですが，それでもこどもの数が減ってきてしまっているのです。私たちが競争をするというよりは，水戸市が引いて，そして，民間の幼稚園とか保育所を盛り上げていかなければならないのだろうという判断になります。

ただ，一方で，ある一定の責任は持っておかなければなりませんから，今ある幼稚園や保

育所は何とか頑張って水戸市が運営していこう。だから幼稚園も，そこは少し勝負を賭けるところがあって，３年保育にしたり，あるいは認定こども園にしたりということで，決して負け続けるわけではなくて，勝負を挑んでいるところもございます。例えば，酒門幼稚園でも緑岡幼稚園でも３年保育にしましたから。それで随分私は民間の保育園の園長先生に言われましたよ。うちが減って困っているのに，水戸市が勝負を賭けてきたということで怒られました。

ただ，ある一定の責任は持たなければならないから，私たちも勝負を賭けるところは勝負を賭けた。だけれども，では，新しくつくってまで勝負を賭けるかといったら，それはそうではないという判断をさせていただき，申し訳ないですが，見川については廃園の決断をさせていただきました。

現実に今，幼稚園でも，民間の幼稚園で定数減の申し出が相当あります。定数減をしないと幼稚園の経営が成り立たなくなってきているのです。定員が100人のままで実は50人しかいなかったとなると，１人当たりの補助金が少なくなるのです。その実態に合ったような形で定数を削減していかないと経営が成り立たなくなるものですから，そういう幼稚園がばたばた出てきまして，今，水戸市にも翌年から定数は下げたいという幼稚園がとにかく出てきています。

そういう民間との競争については避けたいという思いから，一定の責任の範疇で残して，そして，新たにつくるものについては，今回は廃園という判断をさせていただいたということは御理解をいただければと思っています。

跡地についてはどうするのだということなのですが，先ほども話があったとおりではありますが，まずはソフト事業の展開をしてから，ここについてハードでいくのか，あるいは別な方法でいくのか。

ただ，これは私の思いなのですが，学校施設というのはこどもの財産なので，こどもにお返しをしたいと思っています。

先ほど，多世代交流とか高齢者も使えるという話がありました。それはそれで，中の工夫で，できればできたでいいと思います。ただ，主体は，こどもの財産なのでこどもにお返しをしたいと私は思っています。だから，何かをつくるにしても，こどもをメインにした何かの施設とか，何かの居場所ということが私は理想なのかなと思います。

そこに地域の方々とか高齢者の方々が絡んで多世代交流ができればできたでそれはいいのかな。ただ，メインはあくまでもこどものための施設，学校の施設はこどものものだから，こどものために使うというところに立ち返りながら，次の計画づくりの中で，ここの跡地はどういうふうにしたらいいのかということをまた議論を深めていければと思っておりますので，皆さん，今日は納得しない部分がたくさんあろうかと思いますが，これからも議論は継続させていただければと思っております。

今日は大変有意義な意見交換ができましたことに心から感謝申し上げまして，総括になりませんが，私のほうの総括とさせていただきたいと思います。

本日は，本当にありがとうございました。

○座長

それでは，司会者のほうにお返しいたします。よろしくお願いいたします。

○司会

私の経験でも，こういう討論会というのは，終了時間が迫ってくるにつれて盛り上がるものだということを何度か感じたことがありまして，本日もそうなりかけたというところでお時間になってしまいました，

最後になりますが，閉会の言葉を，住みよい見川をつくる会の○○さんからお願いいたします。

○住みよい見川をつくる会Ｈ　閉会の言葉

住みよい見川をつくる会の○○と申します。

本来は○○から御挨拶する予定だったのですが，急遽，欠席になりましたので，私のほうから閉会の辞を述べさせていただきます。

今日は，高橋市長様，そして関係者の皆様，そして御来賓の皆様，市民の皆様，貴重な時間にお集まりいただきまして，本当にありがとうございました。

今，市長さんから今後の計画についてもお聞きすることができて，聞いていらっしゃる方も大変有意義だったのではないかと思います。

また，２つの提案をさせていただきましたが，１番目の話題については具体的になりそうな提案もいただきましたので，大変よかったなと思いますし，２番目の問題も，これから深く議論をしていくきっかけになったのではないかと思います。

今日で終わりではありませんので，今日をきっかけに，さらに議論が深まることを祈念して，今日の会を閉めさせていただきたいと思います。

本日は，皆さん，ありがとうございました。

見川地区市民懇談会

日時　令和６年10月19日（土）午後1時30分～午後3時
主催
　　住みよい見川をつくる会会長　　角田恒巳
懇談会テーマ
（１）多世代が交流する総合的学習広場の構築
　　住みよい見川をつくる会　　二宮真一
（２）見川幼稚園跡地を利用した子育て支援施設
　　水戸市立見川見川小PTA会長　　仲田希
　　子育て応援・ペンギンくらぶ代表　齊藤恵

水戸市民憲章

水戸市
Mito City Official Site

わたくしたちは
いつも若く　あすをめざす
伝統ゆかしい　梅の都
水戸の市民です

１つ　自然を愛し　美しいまちにしましょう
１つ　教養を深め　文化の高いまちにしましょう
１つ　仕事に励み　豊かなまちにしましょう
１つ　きまりを守り　住みよいまちにしましょう
１つ　心を合わせ　楽しいまちにしましょう

新規事業
「多世代が交流する総合的学習広場構築」
キャッチフレーズ
「スマートコミュニティ」住みよい見川

NHK「ごちゃまぜに生きていく」（社法人 佛子園）

障害者、高齢者、大学生、学童、地域の人。

立場や世代の異なる人々が、分け隔てなく混ざり合う街

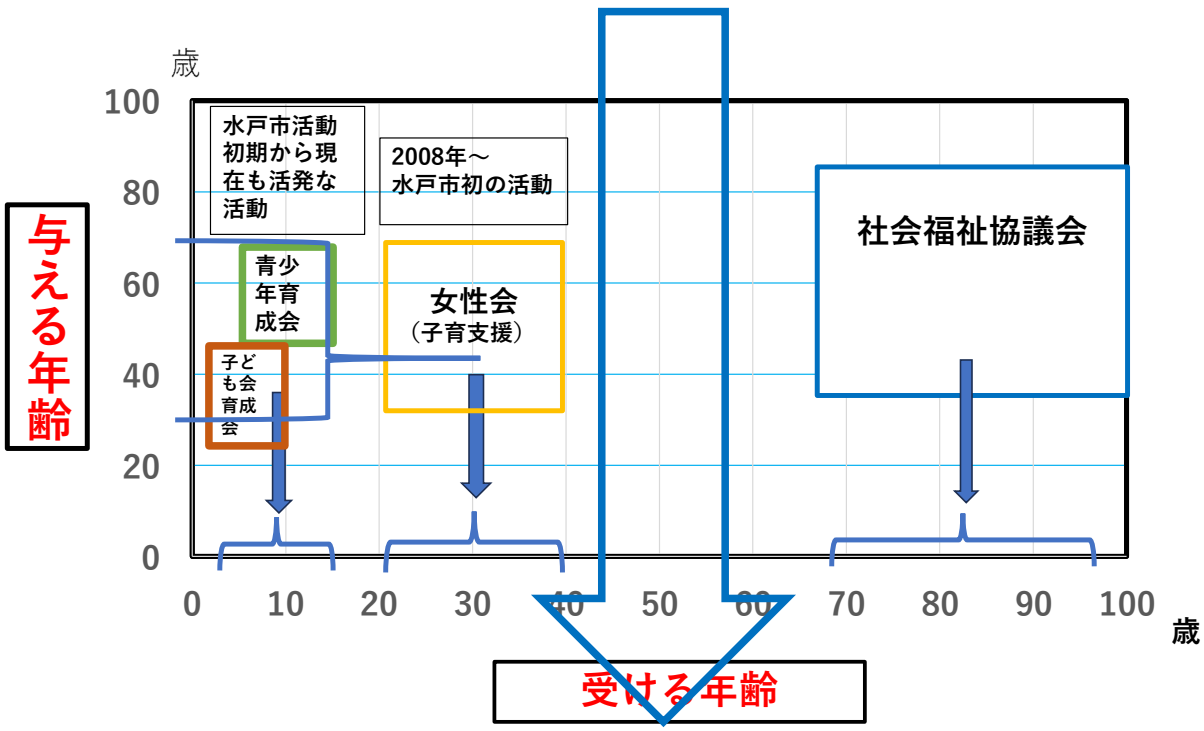
ひととひとのつながりで化学反応をおこす

2024年10月19日市民懇談会説明資料

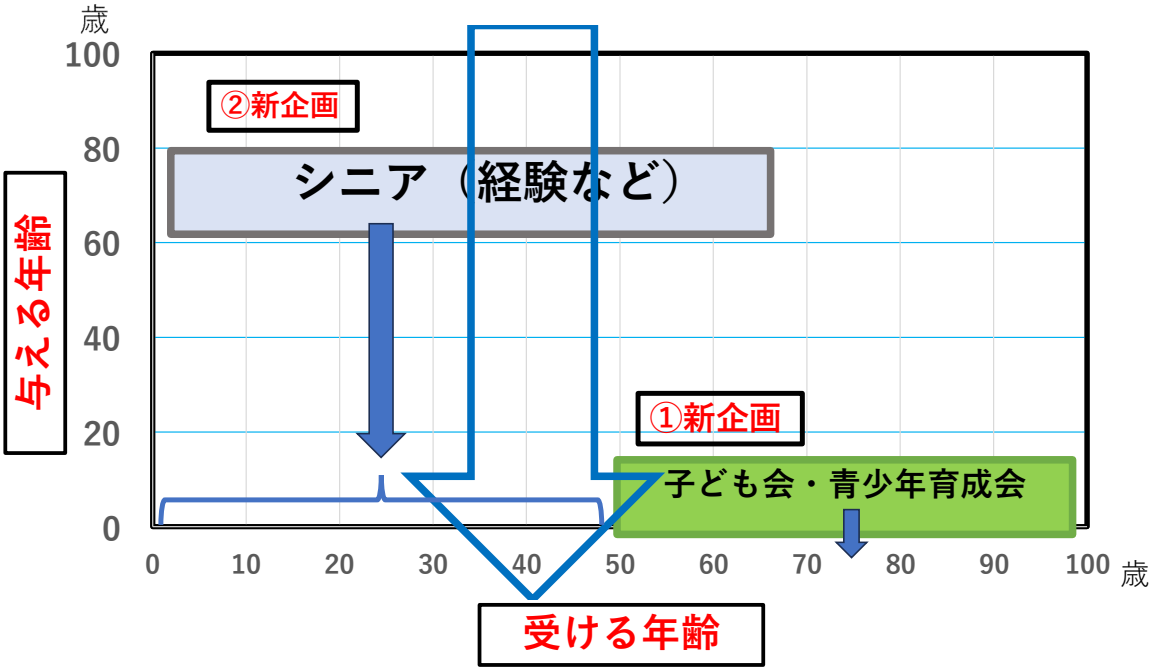
住みよい見川をつくる会　二宮真一

https://www.tyojyu.or.jp/net/kaigo-seido/jirei/gochamazedekuraserumachi

1.現在の住みよい見川事業活動（イメージ図）



2. 住みよい見川の新事業構築（イメージ図）



①新企画　2023年度実施　住みよい見川　生涯学習部「スマホ、もう一歩前進」

1. 課題（現状）
   スマホを購入したが、
   1)携帯電話会社の講座　通り一辺倒な話で理解できない
   2)有料講座　一度で理解できるはずもなく、困った時に相談できる先が無い

2. 計画
   1）指導者:　ジュニアリーダーズ・高校生会
   2）受講者:　シニアの携帯ビギナーズ

3. 成果
   3回実施、延受講者60名　サポーター延18名
   1)受講者
   ・家族・孫とは違い質問し易い
   ・講座終了後も参加者、ジュニア、高校生と繋がり不明な点が尋ねやすい。
   ・各活動団体にLINEを使った案内が出来る様になった
   ・携帯電話のリスクが良く理解できた(SNSに回答し空き巣に侵入、早く知っていれば)
   2)指導者：
   ・自分も役に立つことが分かった。これからも地域の役に立ちたい。
   3)要望：次回、テーマ（水戸市情報など）を決めて開催して欲しい

2024年度新事業企画

夏休み企画
「見川」多世代交流ふれあい広場

開催の趣旨　見川小・見川中の
子供たちと地域住民のコミュティ
交流が目的です

開催日　2024年8月17日（土）午前10時から12時
場所　　見川市民センター　駐車スペース狭いです
対象　　参加年齢制限なし　経験必要なし
初めて見川市民センターに来る方大歓迎

今回のチャレンジテーマ「達人・何でも皆で解決」
当日、参加者に「おいしいかき氷」を提供します。

内容
1. 夏休みの宿題、1学期復習の達人（和室）
大学生、シニアがお手伝い
（小学生、中学生向け　宿題等持参ください）
2. 遊びの達人（ホール）
（ボツチャ・水戸発祥オセロの達人を目指します）
3. スマホの達人（集会室）
（使い方、疑問など何でも解決、スマホで水戸市生活情報、市民センターイベント情報等の入手を目指します。シニア向け）

解決には
大学生、高校生会、Jリーダーズ、地域シニアが対応

問い合わせ先：当日参加歓迎ですがおよその人数把握のため
（7月8日から19日の平日午後２時から午後５時まで電話受付）
下記にご連絡ください。
見川市民センターTEL 029-243-6733
当日、諸事情により企画内容の変更、参加の制限が発生した場合には何卒ご容赦下さい。

主催：水戸市社会福祉協議会　見川支部長小林博江（企画：林由香里）
共催：住みよい見川をつくる会、見川女性会、子ども会育成会、青少年育成会、
高齢者クラブ、水戸市見川市民センター

①新事業　2024年度実施　「スマホの達人」
住みよい見川・水戸市社協（見川支部）見川女性会、
子ども会育成会・青少年育成会、見川地区高連、見川市民センター

1. 課題
　1）水戸市市報が月1回になる。
　2）年齢を重ねるにつれ行動範囲が狭くなり情報が簡単に得られない

2. 計画
　1）指導者：ジュニアリーダーズ・高校生会（10名）
　2）受講者：シニアの携帯ビギナーズ＆利用者（事前登録者20名）

　実施の内容　スマホの「LINE」使って
　1）人生100年時代の新たなシニアへの変身
　2）水戸市の情報を得る
　3）見川市民センターのイベント情報を得る
　4）防犯アプリ「いばらきポリスの活用法」水戸警察署提供
　5）グループライン作りをつくり情報発信

3. 成果
　台風9号接近のため中止、12月7日に実施予定

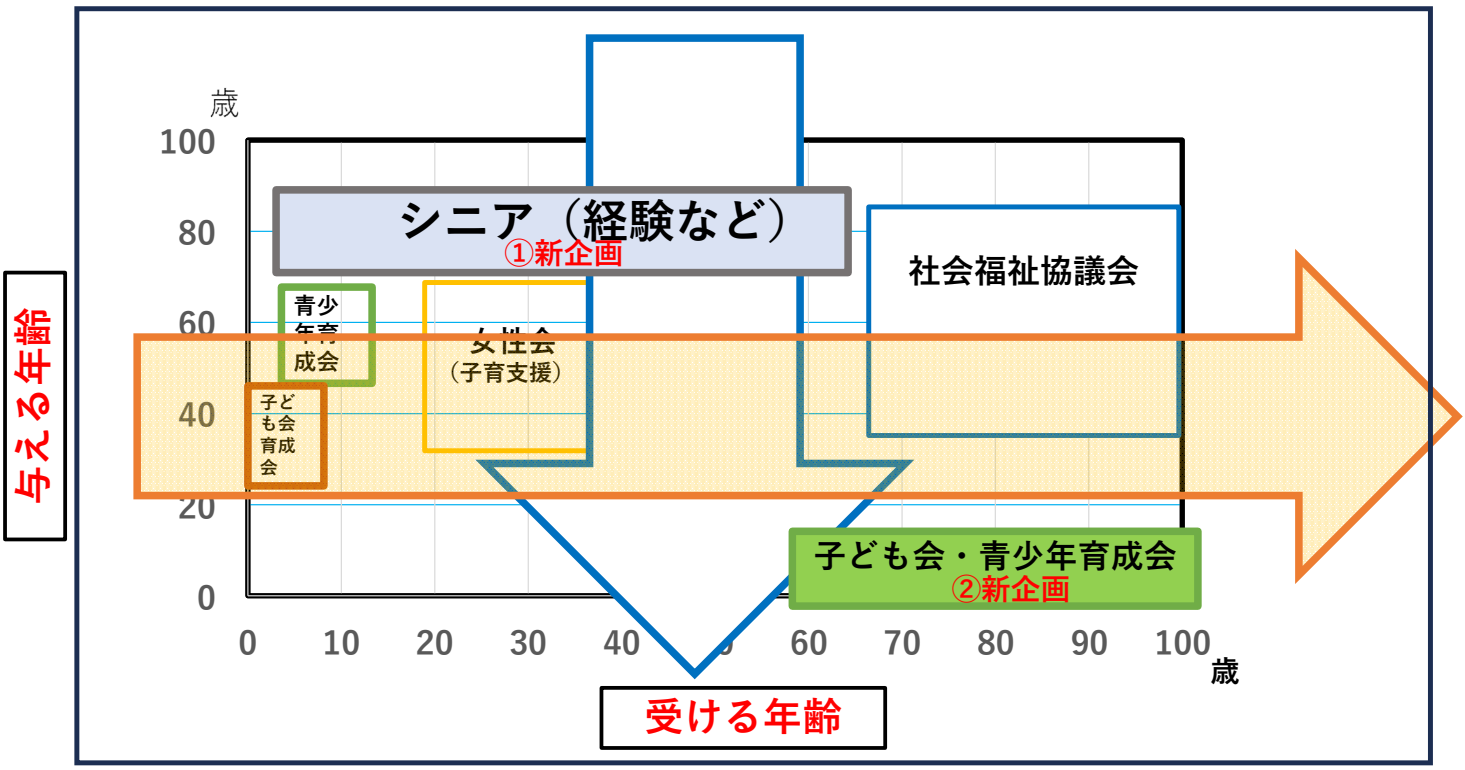
②新事業　2024年度実施　「学習の達人」「遊びの達人」
住みよい見川、水戸市社協（見川支部）、見川女性会、
子ども会育成会・青少年育成会、見川地区高連、見川市民センター

1. 課題（現状）
1）子ども会会員交流の場が無い
2）シニアの活躍の場が無い
3）世代間ギャップが広がる

2. 計画
1）夏休み期間中に気兼ねなく宿題持って遊びに行ける場所を提供する
2）シニア：教員経験者、ボッチャ、オセロ達人に遊び相手になってもらう
3）茨大地域未来共創学環の学生と企画の結果分析、コミュニティの在り方について検討する

3. 成果
台風9号接近のため中止、12月7日に実施予定

3．今後の現事業と新事業の枠組み



スマート（賢い）コミュニティ住みよい見川

住みよい見川の活動の目指すところ：
見川地区に多世代が交流し複数の課題をワンストップで解決する共助の場をつくる

最終ゴールの設定：　水戸市の目指す姿（第４次コミュニティプラン）
住んで楽しい
持続可能な地域コミュニティ
を実体感し水戸市に生涯住みたい「FUN 」増加につなげたい

提案の主旨

「スマートコミュニティ住みよい見川」
新規事業計画「多世代が交流する総合的学習広場構築」については，現在試行実験も行いつつ考えを磨き上げています。

この事業を形にするには，最終的には市の関係部署の職員や，社会福祉協議会等の市関係機関から何らかの協力をいただくことになる可能性が高いことが見込まれます。

そこで協力を得る際には，各組織がしっかりと横の連携をとれていることが重要と考えます。一方で，現時点で市の協力を得ようとした場合，基本的に市民センター所長が対応する形となっているため，横のつながりを強化しづらいのが現状と思います。

そのため，市民センター所長だけでなく，その他の関連部署の職員等からもアドバス等をいただけるように，現行の制度を拡充・充実して頂きたいと考えております。

何卒ご検討のほどよろしくお願いいたします。

本事業企画にご協力頂いた方々

水戸市社会福祉協議会見川支部
高齢者クラブ
子ども会育成会
ジュニアリーダーズ
サブリーダーズ会
茨城大学地域未来共創学環の方々
住みよい見川をつくる会　赤岩さん
地域シニアの方々
見川市民センターの方々
水戸警察署
その他、関係者の方々に感謝致します

1.　見川幼稚園跡地を利用した子育て支援施設

提案者　見川小学校PTA会長　仲田希
提案者　子育て応援・ペンギンくらぶ代表　齊藤恵

現状

1. 見川地区に子どもたちが安心して遊べる広場・施設が無い

2. 水戸市立見川幼稚園閉園に伴い地区外通園になり、
地区小学校への進学に不安を抱える親子が少なくない

3. 子育て関連施設が無いため、子育て世代の不安がとても大きい

見川小学校PTA会長　仲田希の提案

1. 見川地域内で、子育ての不安など相談できる
2. 子どもたちが安心して遊ぶことができる
3. 子どもたちと地域の人たちが交流できる
4. 異なる園の子どもたちが親子で交流できる

例えば、平須地区「ふれあいの館」のような地域で子育て支援の拠点となる施設を見川地区に作ってほしい

子育て応援・ペンギンくらぶ代表　齊藤恵の提案

1. 子育て世代の不安解消、地域差の無い社会の構築
2. 歩いて行ける場所、地域の目が届く場所、多世代が関わる見守り・助け合いの場をつくる
3. シニアの活躍が必要、積み重ねた知識や経験、地域の絆や伝統を伝承できる

見川幼稚園跡地を利用した子育て支援施設
二人からの提案

1. 地域の子育て世代が不安にならないよう、安心して子供を産める環境を整え、地域格差の無い社会、地域づくりを進めるため、見川幼稚園跡地の有効活用を望む
2. 支援施設の利用・活用はだれでも
   乳幼児～園児～小・中・高校生から大人　誰でもOK
3. 校庭を公園的機能にして、走り回る、ボール遊びなどができるようにする
4. 地域で子どもを育むことで、地域コミュニティを活性化させたい